

第32回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成26年12月11日（木） 15：00－16：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

阪本内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

(1) 新「宇宙基本計画」（素案）及び新「宇宙基本計画」工程表（素案）に関する意見募集の結果について

(2) その他

5. 議事

(1) 新「宇宙基本計画」（素案）及び新「宇宙基本計画」工程表（素案）に関する意見募集の結果について

新「宇宙基本計画」（素案）及び新「宇宙基本計画」工程表（素案）に関する意見募集の結果について、事務局より報告があり、その後、これについて審議を行った。意見募集の結果については、次回の宇宙政策委員会において審議し、公表することになった。（以下、○質問・意見等、●回答）

○「宇宙安全保障の確保」について、所属が「その他」の人からの意見が多かったとの説明が事務局からあったが、所属を未記入の人が多いのか、それとも記入はされているがそれぞれバラバラなのか教えてほしい。（山川委員）

●「その他」の人の多くは所属を未記入の人である。（頓宮宇宙戦略室参事官）

○参考資料1の宇宙基本計画（素案）の本文の23ページの調査分析・戦略立案の強化について「関係機関には学術機関が含まれるのか」という意見があったようだが、ここでいう「関係機関」の定義には、学術機関も含まれると理解している。そうだとすれば、本項目の担当省庁に、内閣府と外務省に加え、文部科学省も入れておくべきではないか。（山川委員）

○宇宙政策委員会調査分析部会の第10回会合で「情報収集、調査分析機能の在り方について」を取りまとめたが、その中で「内閣府宇宙戦略室が適切に情報収集、調査分析に関する定常的な取り組みを行うことが必要であり、JAXAの機能も活用しつつこれを強化する」との提言を行った。宇宙政策の調査分析・戦略立案機能強化に向け、JAXAに貢献してもらおう観点から、JAXAの主務官庁である文部科学省にも本項目の担当省庁に入ってもらえることが適当ではないか。なお、今回は文部科学省の追加だけでよいと思うが、調査分析機能は内閣府、外務省、文部科学省の三府省に限定された話ではないので、将来必要性が生じれば他の省庁にも担当に入ってもらえるよう自由度を持たせておきたい。(中須賀委員)

●ご指摘を踏まえ、文部科学省と相談したい。(頓宮宇宙戦略室参事官)

○準天頂衛星については、7機体制を推進すべきとの意見がある一方、費用対効果などの観点から見直しも必要という意見もあるとの説明であった。もし主要な意見を抜粋した資料を作るのであれば、両方の意見を併記すべきである。また、どのような意見が何件寄せられたのか、件数を公開すべき。(山崎委員)

○意見ごとの具体的な件数は公表する方向で検討していただきたい。(松本委員)

●主要な意見を抜粋した資料を作成するかどうかは未定であるが、どのような意見が何件寄せられたのか、件数を公開する予定である。(小宮宇宙戦略室長)

○今回のパブリックコメントの意見募集期間は本文が2週間で工程表が1週間、合計3週間との説明があったが、これは前回と同様か。また、寄せられた意見はパブリックコメント期間の初めに多くの意見が寄せられたりとか、締め切り直前に多くの意見が寄せられたりとか、一定の傾向は見られたのか。(松本委員)

●傾向としては、土曜、日曜に資料をじっくり読んで意見を出す方がある程度いたと理解している。余談であるが、工程表に寄せられた意見については、工程表ではなく本文に関連した意見も相当程度あった。このため、本文は形式的には2週間の意見募集を行ったのだが、実質的には3週間にわたって意見募集を行ったのと同様であったとの印象を持った。また、寄せられた意見のうち、判で押したような批判意見はほとんどなかった。むしろ、しっかりと宇宙基本計画を読み込んだ上で、自分の言葉で書かれた意見や提案が大半であった。(小

宮宇宙戦略室長)

○宇宙予算をもっと増やすべきという意見はなかったか。(松本委員)

●宇宙予算をもっと増やすべきという意見は数件寄せられていた。(小宮宇宙戦略室長)

○所属が「公務員」の方からの意見数が少ないとの説明があったが、なぜか。(松本委員)

●こうした意見募集において、国家公務員が意見を出すことは少なく、意見の大半は地方公務員から寄せられる場合がほとんどである。宇宙開発利用に取り組む地方自治体は少なく、宇宙に興味関心を持つ地方公務員も多くはないため、結果的に、「公務員」からの意見が少なくなったのではないかと推察する(中村宇宙戦略室審議官)

○人工衛星の開発・整備・打ち上げ・運用にかかる費用のうち、運用にかかわる費用を削減する方策について関連する記述を加えるべきという意見があり、この意見を踏まえて宇宙基本計画の本文を修正するとの説明であったが、どのように修正するつもりか。(中須賀委員)

●宇宙基本計画の本文では、今のところ開発や整備、打ち上げの部分については方策について具体的な言及があるが、運用についてのみ記載がないので、今後、運用について削減する方策も合わせて検討していくという趣旨で、例えば「等」を入れる形で修正すると回答してはどうかと考えている。(森宇宙戦略室参事官)

○運用費を効率的に進めるというのは世界中で行われていることだが、日本ではなかなか進まないという現状があり、非常に大事なことである。修正の方向性については承知した。(中須賀委員)

○JAXA 以外のものも含めて日本の宇宙技術を広報として発信すべきという意見があったとのことだが、これをどのように吸い上げていくのか、考えがあれば教えてほしい。(山崎委員)

●宇宙技術の発信の内容については、日本の宇宙技術を使った海外展開を念頭

に置くことになると思うが、例えば、JAXA や企業と連携し、日本の宇宙技術を海外に売り込んでいくことは国際展開の部分に含まれていると考える。(頓宮宇宙戦略室参事官)

○宇宙システム海外展開タスクフォース(仮称)の検討において、日本の優れた宇宙技術の対外発信についても取り扱うということか。(山崎委員)

●宇宙システム海外展開タスクフォース(仮称)の検討を進める中で、日本の優れた宇宙技術についても、具体的な商談につなげていくべく取り組む。(頓宮宇宙戦略室参事官)

●宇宙システム海外展開タスクフォース(仮称)のほかにも、二国間、多国間、地域協力等の様々なレイヤーで国際宇宙協力を進めていく旨を宇宙基本計画の本文に記している。日本の優れた宇宙技術の対外発信については、このような様々な場において発信をしていくということだと思っている。(小宮宇宙戦略室長)